

田中研新聞

第81号

2020年
3月30日発行

甲南大学知能情報学部田中研究室 ほぼ毎月発行
http://carnation.is.konan-u.ac.jp
編集責任 田中雅博

新型コロナウイルスによりパンデミック

日本・世界の危機を乗り越えよう！

概況

昨年11月ごろ、中国武漢で野生動物から発生したといわれる新型コロナウイルスによる肺炎は、武漢で猛威をふるい、中国各地に広まったほか、日本にも入り込んだ。日本ではくすぶり続けているが、ヨーロッパ、アメリカでは爆発的に流行し、国をまたいだ人の往来が大きく制限されている。

どこまで広がるのかということはいろいろな説があるが、局所的な流行ではおさまらなくなっている現在の状況では、全世界の人の間に広まり、回復者と死亡者が大きな数にならないと、感染が収まらない可能性が高い。爆発の速度によって、全世界の人口のほぼすべてが感染するというケースや、少し遅ければ4分の1などの説がある。

甲南大学からみた状況

視点を甲南大学に移し、現在の状況を把握してみよう。以下、甲南大学ホームページから主要なものをピックアップする。

2月20日、第1報
感染予防を呼びかけ、中国への渡航を中止。

2月26日、第2報
韓国の流行地への渡航を中止。

2月28日
卒業式がストリーミングに

なることを表明。
3月2日、第4報
イタリアの流行地への渡航を中止。
その後、オープンキャンパスの中止、部活動の自粛、大人数での会合の中止要請など。

3月4日、第5報
以下のメッセージが発信されている。

10代、20代、30代の皆さん。若者世代は、新型コロナウイルス感染による重症化リスクは低いですが、このウイルスの特徴のせいで、こうした症状の軽い人が、重症化するリスクの高い人に感染を拡大してしまう可能性が非常にあります。皆さんが、人が集まる風通しが悪い場所を避けるだけで、多くの人の重症化を食い止め、命を救えます。

3月21日、第13報
留学の中止要請。その他、渡航禁止区域の拡大。
3月26日、第6報（実際は13・5報）
以下のような学生向けメッセージが発信されている。
感染予防について
これ以上の感染拡大を防止するため、次のことにお気をつけください。

手洗いや咳エチケットなど基本的な感染症対策を徹底してください。
バランスのとれた食事、適度な運動、休養、睡眠などにより抵抗力を高めるよう努めてください。
換気の悪い密閉空間、人が密集、近距離での会話や発声が行われる「3つの条件」を回避してください。
不要不急の外出や会合の

田中研究室の対応

以上が主な内容である。会議も通常よりも大きな部屋で、マスク着用で行われている。

今までは春休みの時期に当たっていたので、学生もほとんど来る必要がなかったのは幸運だった。
田中研では、大学からの要請以外に、田中の判断で、以下のようにしている。

学生実験室（ゼミ室）の出入りは制限していない。しかし、体温が37度以上ある場合は、直ちに帰る。研究室に入らず、直ちに帰る。無症状の人からも感染することがあるという点なので、ゼミ室ではマスク着用をし、会話する際には、2m以上間隔をあけて行うことを要請する。感染予防

新学期に向けて

すべての授業（学部、院とも）は、4月20日までなされる。その後は、少人数（30名以下）の授業は教室で行われるものがある。30名を超えるものはすべて最初の2回はネットを使った授業。授業形態ははつきりしないが、動画配信は、間違いなく認められる形態のようである。動画が90分ある必要があるのかどうかははっきりしない。3回目以後（連休以後）については、状況を見て判断するということがある。場合によっては、前期のかなりの期間がオンライン授業（動画を使ったらオフラインではないかと思うのだが）になることもある。

これは、ある意味、今後の授業形態が、今までのように人を一か所に集めて行うものから、コンテンツを使って分散授業を行うものになる。この場合、1クラス6名ずつで、3クラスある。これも、動画の講義資料とするのは可能であるが、演習中心なので、学生がわからないというケースに対応するのが困難。おそらく通常の形でゼミ室で行うことになるだろう。別の場所では、ソフトの関係で実施困難である。講義の準備は済んでいる。

【講義方法】ビデオ配信。
これは実験科目であり、Pythonの基礎と、Deep Learningのお試しコースを提供する。私の場合、1クラス6名ずつで、3クラスある。これも、動画の講義資料とするのは可能であるが、演習中心なので、学生がわからないというケースに対応するのが困難。おそらく通常の形でゼミ室で行うことになるだろう。別の場所では、ソフトの関係で実施困難である。講義の準備は済んでいる。

【講義方法】ビデオ配信。
これは実験科目であり、Pythonの基礎と、Deep Learningのお試しコースを提供する。私の場合、1クラス6名ずつで、3クラスある。これも、動画の講義資料とするのは可能であるが、演習中心なので、学生がわからないというケースに対応するのが困難。おそらく通常の形でゼミ室で行うことになるだろう。別の場所では、ソフトの関係で実施困難である。講義の準備は済んでいる。

【講義方法】ビデオ配信。
これは実験科目であり、Pythonの基礎と、Deep Learningのお試しコースを提供する。私の場合、1クラス6名ずつで、3クラスある。これも、動画の講義資料とするのは可能であるが、演習中心なので、学生がわからないというケースに対応するのが困難。おそらく通常の形でゼミ室で行うことになるだろう。別の場所では、ソフトの関係で実施困難である。講義の準備は済んでいる。

【講義方法】ビデオ配信。
これは実験科目であり、Pythonの基礎と、Deep Learningのお試しコースを提供する。私の場合、1クラス6名ずつで、3クラスある。これも、動画の講義資料とするのは可能であるが、演習中心なので、学生がわからないというケースに対応するのが困難。おそらく通常の形でゼミ室で行うことになるだろう。別の場所では、ソフトの関係で実施困難である。講義の準備は済んでいる。

【講義方法】ビデオ配信。
これは実験科目であり、Pythonの基礎と、Deep Learningのお試しコースを提供する。私の場合、1クラス6名ずつで、3クラスある。これも、動画の講義資料とするのは可能であるが、演習中心なので、学生がわからないというケースに対応するのが困難。おそらく通常の形でゼミ室で行うことになるだろう。別の場所では、ソフトの関係で実施困難である。講義の準備は済んでいる。

●知能情報学基礎及び演習（基礎ゼミ）
この科目は、オムニバス形式の講義（講演）と、6名程度のグループに分かれたディスカッションより構成される。ディスカッションの部分はどうしても同じ場所に集まって議論しなければならぬ。第二回は従来全員が大教室に集まり、オリエンテーションをしてきたが、今年は指導主任の部屋に分かれて集合し、ここでオリエンテーションを行う。また、共通テーマでのグループごとのディスカッションを後半に回し、前半で各教員ごとの教育・研究内容の基礎を話す。その前半部分は、ビデオ講義となる。

●大学院講義
今年はM1が5名なので、多くても履修者は5名。受講者数によって最終的に決めるが、4月20日の週から通常通り、演習室で行う予定。

●ゼミ
実質的には既に始まっている。facebookでテーマ設定はほぼ終わり、これから具体的な作業に入る。4月に入れば、課題の理解や進め方などをZOOMを使ってネットにより議論する。facebookやメール、LINEなども併用する。

【講義方法】ZOOMを使用。4月7日 ZOOMを使ってオンライン授業。4月14日 ZOOMを使ってオンライン授業。

【講義方法】ZOOMを使用。4月7日 ZOOMを使ってオンライン授業。4月14日 ZOOMを使ってオンライン授業。

【講義方法】ZOOMを使用。4月7日 ZOOMを使ってオンライン授業。4月14日 ZOOMを使ってオンライン授業。

【講義方法】ZOOMを使用。4月7日 ZOOMを使ってオンライン授業。4月14日 ZOOMを使ってオンライン授業。

編集後記

4月21日以後のゼミをどのように行うかは未定であるが、ZOOMを使ったオンライン授業を継続する可能性もある。

新型ウイルスが広まり、パンデミック状態になった。日本でも、今後さらに広まることはほぼ間違いないだろう。

毎日いろいろな新しい話が聞けて、個人的には非常に興味をもってこの件の成り行きを見ている。その一つに、日本株のBCG接種が感染を抑えるのではないかと、ある程度の説得力を持って伝えられている。

イタリア、アメリカでは強制的にBCG接種が行われなかったことや、その他のヨーロッパ諸国でも、昔は行われたが、結核が激減した現在では行われていないということである。

あと、感染の広がりに関して、SIRモデルという微分方程式が有名らしい。これは、S（それ以外の未感染者の人口）、I（現在感染者数）、R（回復及び死者数）によるものである。一人の感染者が何人に感染させるかという率が1を超えるか超えないかで、何億人の違いが生じる。

人との接触を避けるというのはこれを1以下にせよということである。そうすれば、夏には収束し、遊びに行けるだろう。これが2くらいになると、皆さんのおじいちゃんおばあちゃんがたくさん死に、世界の人口ピラミッドが変わるほどの変化をする。国にも、こういう説明をしてほしいものだ。

